

■岸田劉生 洋画家。娘麗子やその友お松の肖像に独自の画境を開き、浮世絵風の顔麗美の漂う作品に進んだが、早世。

きしだりゆうせい
足尾鉦毒始・1891＝

東京銀座で、_明治の先覚者の一人岸田吟香の第9子、四男に生まれる。

日清戦争始・1894＝ 3歳：

ビ7/国産化・1900＝ 9歳：

日露戦争終・1905＝14歳：父、母が相次いで死去。生活が傾く。
満鉄発足・1906＝15歳：東京高師付属中学を中退して、洗礼を受け、

アヲキ創刊・1908＝17歳：_白馬会葵橋洋画研究所に入り、黒田清輝に師事して外光派の作風からスタート。

伊藤博文暗殺1909＝18歳：*第13回白馬会展に「雨」、

韓国併合・1910＝19歳：_第4回文展に「馬小屋」「若杉」が入選。

明治天皇没・1912＝21歳：_木村荘八、バーナード・リーチを知り、また雑誌{白樺}の同人、柳宗悦、武者小路実篤、長与善郎などの交友が始まる。同誌に紹介された後期印象派やフォービズムなどの感化を受けて白馬会を去り、高村光太郎の経営する環口堂で最初の個展を開き、木村、高村、斎藤与里、万鉄五郎らと反自然主義のフウザン会を結成(翌年解散)。

大正政変・1913＝22歳：結婚。_この頃、さかんに自画像や「B. Lの肖像」など肖像画を制作。

第一次大戦始1914＝23歳：長女麗子誕生。_この頃から北欧ルネサンスの絵画に関心を高め、デューラー、ファン・アイクらの作品の感化のもとに、細密な写実画に転じた。個展。妻をモデルの「南瓜を持てる女」「画家の妻」など、

21ヶ条要求・1915＝24歳：_木村、中川一政らと草土社をおこし、「赤土と草」、

民本主義・1916＝25歳：「切り通しの写生」など出品。この年、肺結核と診断され屋外写生禁止になる。「壺の上に林檎が載って在る」などデューラー風の神秘感のある細密描写による“内なる美”を追求し、肖像、静物、風景の数多い秀作を発表して青年画家に大きな影響を与えた。

ロシア革命・1917＝26歳：鶴沼で転地療養。*「林檎三個」。第4回二科展で「初夏の小径」が二科賞を受賞。この頃健康を回復。

本格政党内閣1918＝27歳：「麗子五歳之像」に始まる娘麗子やその友お松の肖像に独自の画境を開く。「村娘之図」「川幡氏の像」、

ベルシム条約・1919＝28歳：「麗子坐像」、

大暴落・1920＝29歳：克明な日記をつけはじめる。「劉生画集及芸術観」を出版。「支那服を着た妹照子像」、

原敬首相暗殺1921＝30歳：「劉生図案集」を出版。_「童女像」「麗子微笑」、

水平社結成・1922＝31歳：春陽会の創立に客員として参加(1925年退会)、草土社は解散となる。

この頃、_一連の麗子像を中心として、画業は頂点を示したが、歌舞伎を楽しみ、長唄を習い、酒に親しんで、作風はしだいに日本的性格をおびるようになり、

関東大震災・1923＝32歳：*関東大震災で神奈川県鶴沼から京都に転居。ますます強く初期肉筆浮世絵や宋元画に傾倒、東洋的な表現を加味した独自の画風を築き、また水墨淡彩の日本画を手がけることも多くなった。

_「童女舞姿」は浮世絵風の顔麗美の漂う京都時代の代表作である。

金融恐慌・1927＝36歳：大調和会を結成。

世界恐慌・1929＝38歳：*満州に旅行、「大連星ヶ浦風景」などを描いたが、帰途、山口県徳山の旅舎で、尿毒症に胃潰瘍を併発して、急逝した。